

実施日：12月20日（5校時）	
領 域：特別の教科 道徳	
取組名：トランスジェンダーの権利とすべての人が生きやすい社会	
対 象：中学2年生	実施場所：教室
<p>ア ねらい</p> <p>①多様性が謳われている昨今、様々な視点からそれぞれの立場に立ち議論する機会をつくり、すべての人が生きやすい社会にするために必要なことを考える。</p> <p>②裁判でも難しい議論になる問題なので、結論を出すことが目的ではなく、だれもが納得できる方法を考え続け、自分事としてとらえる姿勢を身に付ける。</p>	
<p>イ 指導内容（指導略案）や取組の概要</p> <p>①裁判の概要を確認する。</p> <p>②トランスジェンダーの職員側、経済産業省側のどちらの立場に賛成か、個人の意見をワークシートに書き、ペアトークをする。</p> <p>③②について、立場ごとの意見を全体発表した後、他者の意見につなげて次々に発表する。</p> <p>④両者が納得するような意見をグループで話し合う。</p> <p>⑤④について全体発表し、その後まとめをする。</p>	
ウ 連携先：	
エ 連携にむけての取組	
<p>オ 組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点</p> <p>研究に進めるにあたってのテーマを明確にし、めざす子どもの姿を統一する。</p>	
<p>カ 評価の方法</p> <p>ワークシート（感想文）、授業での発表、話し合い活動の様子 [別紙③]</p>	
<p>キ 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・性的少数者の立場を考えるとともに、すべての人のことを考え、解決に向けて葛藤することができた。 ・トランスジェンダーの方だけでなく、共に生活するその他の人の人権や様々な問題に関心を向け、考え、話し合い続けることの大切さを学ぶことができた。 	
<p>ク 課題</p> <p>デリケートな問題であり、また該当する生徒がいる可能性もあるため、様々な配慮が必要である。今後も授業の時間だけでなく日々の学校生活の中で考え続け、性的少数者の人権について、すべての人が理解する世の中にしていくよう、指導し続ける必要がある。</p>	